

課題

- ニュータウンの**高齢化率は約35%**で、増加傾向。**坂道や起伏が多い地理的特性**により、**高齢者等の外出機会の減少**が懸念される。
- ニュータウン内の基幹交通である**路線バスの運行本数**は、ピーク時（H7）と比較し**約3/4にまで減少**。免許返納後の移動手段の確保が必要。

高蔵寺ニュータウン



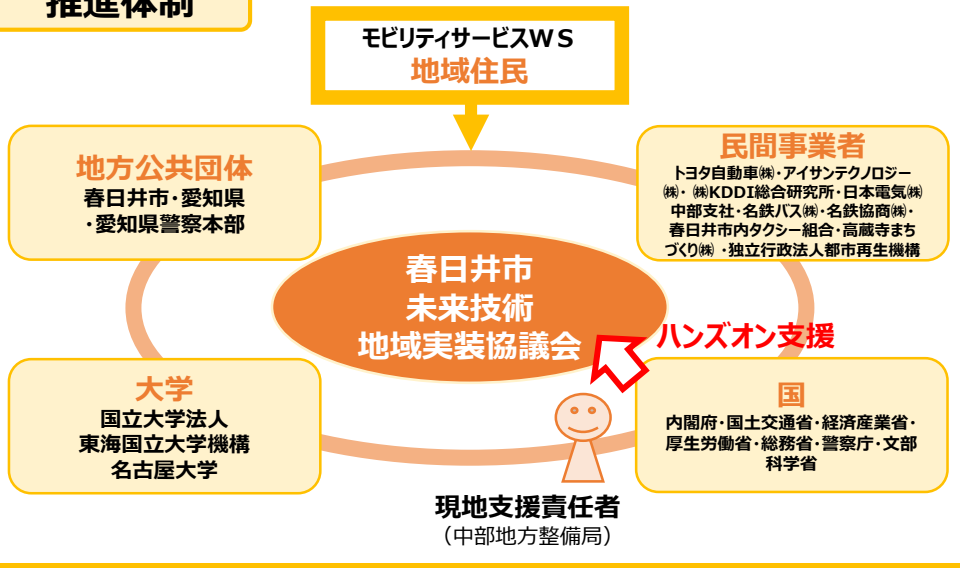
(写真：春日井市提供)

課題解決に向けた取組

ニュータウン版MaaSの検証に基づく新しいモビリティサービスの社会実装
⇒新たなモビリティサービスと既存交通とのベストミックスを構築

- 高齢者の外出支援等を目的として、新たな移動手段について以下のような実証実験を推進。
 - ・地域住民との協働による**ラストマイル型ゆっくり自動運転**（レベル3）
 - ・交通事業者との連携による**AIオンデマンド乗合サービス等実証実験**
 - ・センター地区～高蔵寺駅北口間の**自動運転バス等専用レーン**の検討
 - ・車両位置情報等を共有化する**交通社会ダイナミックマップ**の活用検討 など

推進体制



AIオンデマンド乗合サービス実証実験



ゆっくり自動運転実証実験

- 旧小学校施設をニュータウンの多世代交流拠点施設として活用するとともに、様々なモビリティサービス、商業クーポン等を連携させた**MaaSアプリの活用検討及び交通社会ダイナミックマップとの連携検討** (写真：春日井市HPより)

2020年度の主な取組

- 限定地域における社会実装を目指した、ラストマイル自動運転実証実験を実施。
- AIオンデマンド乗合サービスの運行スキームを適宜ブラッシュアップし、社会実装（試験運行開始）を目指す。
- MaaSアプリの活用検討及び子育て・若年層をモニターとした実証実験を実施。

取組内容

(写真：春日井市提供・春日井市HPより 図：名古屋大学HPより)

地域密着型MaaSアプリ実証実験 (2020年12月18日～2021年2月28日)

- 春日井市と名古屋大学、KDDI、KDDI総合研究所の連携により、既存公共交通（路線バス等）や自家用車、徒歩など様々な移動手段で目的地までの経路を案内するMaaSアプリを開発。商業連携クーポンや**特定のモビリティサービスの利用に基づき、より割引率の高い商業連携クーポンの利用が可能となる**地域密着型MaaSの実証実験を実施。
- 高蔵寺ニュータウン在住の子育て世代・若い世代を主とした一般市民モニター90名を対象（モニター以外もアプリ利用は可能だが、特定のモビリティサービスの利用に基づいた、より割引率の高い商業連携クーポンの利用は不可。）。
- アプリでは、高蔵寺ニュータウン周辺などの**移動手段の一括検索**や**AIオンデマンド乗合サービスの検索・予約・事前決済**、高蔵寺ニュータウン周辺の**協賛店舗で割引クーポンの利用**ができる。



アプリ画面
 (画像左)
 ルート検索
 (画像中央)
 AIオンデマンド乗合サービス予約
 (画像右)
 クーポン内容確認

取組内容

(写真：春日井市提供・春日井市HPより 図：名古屋大学HPより)

ゆっくり自動運転実証実験

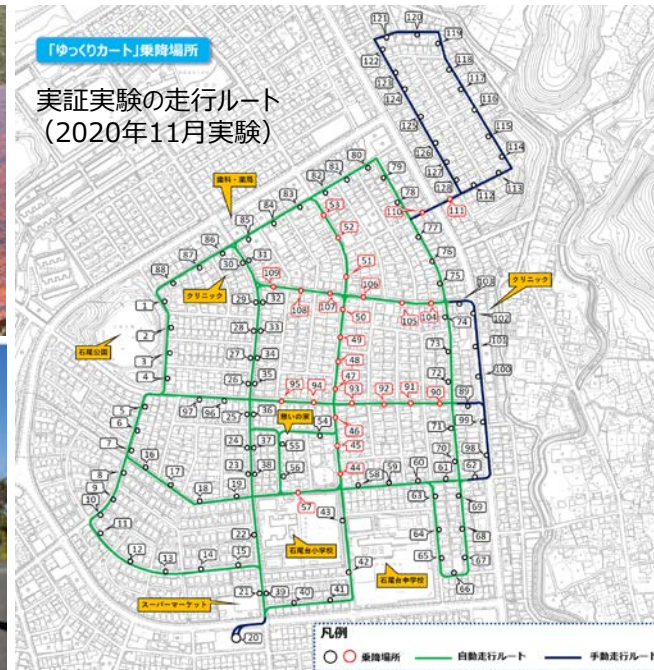
- 地域住民の高齢化に伴い、自宅周辺からスーパーやバス停までの、近距離の移動を担う新たな移動サービスを検討するため、**ラストマイル自動運転（レベル3）の「ゆっくり自動運転」**の実証実験を実施。
- 2018年度 自宅からNT内拠点施設(グルッポふじとう)への移動を想定し、一般市民モニターを2台の自動運転車両「ゆっくりカート」で輸送し、2日間で約40名が体験乗車。車いす利用者回避や歩行者感知などの技術検証を実施。
- 2019年度 自動運転車両「ゆっくりカート」を活用し、ニュータウン内で高齢化率の高い、石尾台にて実証実験を実施し、73名が体験乗車した。合わせて、遠隔監視や信号連携などの技術検証も実施した。
- 2020年度 11月に石尾台にて、**乗降箇所を昨年の36カ所から128カ所に増加、運行間隔を1時間間隔から15分間隔に短縮**し、実証実験を実施。また、将来の移動について考える、**地元での検討会を設立**。2月には、8人乗り自動運転車両による検証や、乗降箇所128カ所以外でも手動運転で送迎することによる利用者の受容性検証を実施予定。

小型電動自動車
(ヤマハカート)

遠隔監視



自動運転車両（8人乗りEV）



路上車いす回避



歩行者認知デモ

取組内容

(写真：春日井市HPより 図：春日井市提供)

AIオンデマンド乗合サービス実証実験

- 春日井市、名古屋大学の連携により、新たな移動サービスを検討するため、高蔵寺ニュータウンにおける高齢者等の交通弱者を主な対象として、ニュータウン及びその周辺をフィールドに、タクシーの利便性を維持しながら、「乗合割引」として、通常のタクシー運賃より安く乗車できる新しい移動サービス「**AIオンデマンド乗合サービス(乗合タクシー)**」の実証実験を実施。
- AIオンデマンド乗合サービスの実証実験の特徴
 - ・タクシーの利便性を維持しながら、「乗合割引」として、通常のタクシー運賃より安く乗車ができる。
 - ・**料金は事前確定制、電話またはHPから予約可能。**
- 2018年度 **市内のタクシー事業者全5社が参画**し（これまではグループ会社単位での実施であり国内初の事例）、共通の予約・配車システム（事前確定運賃を含む）を開発し、実証実験を実施。モニターへの予約・配車アプリを配布するとともに、高齢者モニター等を対象に電話予約受付にも対応。また、現金ではなくデポジットでの決済を行った。
- 2019年度 前年度の実証結果を踏まえ、現金利用での実証実験を実施。利用促進として**協賛店舗で利用できるクーポン券を配布**したところ、**利用者108名、延べ734名の乗車**があり、利用者アンケートからも半数以上が満足している結果となった。ただし、料金が安価であることから、事業採算性を確保するための検討が必要。
- 2020年度 事業採算性を確保するため、**稼働車両数の制限や車両タイプの検討、利用料金の値上げ、主な乗降場所となる、病院や地域の商業施設との連携（交通手段の提供による協賛金の捻出やMaaSアプリのクーポン提供等）、手荷物運搬にかかるサポートサービス等、複数の事項についてマネタイズの検証**を実施し、2021年2月まで実証実験を行う。



セダンタイプ



ワゴンタイプ



運行区域図